

▼土木に関わる人と活動/つなぐ活動

インフラパートナーへのアンケート調査

土木と市民社会をつなぐフォーラム&土木学会インフラパートナーG 幹事長
CNCP 常務理事&事務局長
(メトロ設計 取締役)

田中 努



■はじめに、そもそも「インフラパートナー」とは

「インフラパートナー」とは、国土やインフラ保全、地域づくり、人材育成などを目指し活動している市民グループ等で、インフラ関連の活動の活性化を図ることを通じて地域のインフラの質的向上を図ることを目的に、土木学会の本部・支部と連携・協働する協定を結んだ団体です。

CNCP のホームページの CNCP 通信のバックナンバー検索システム（下記の URL）で、「OR 検索」を選んで、「タイトル」と「所属団体」にインフラパートナーと入力して検索すると、22 件の関連記事がピックアップされ、pdf で見られます。

<https://npo-cnccp.org/journal/backnumber>

■そして、「インフラパートナー・グループ」とは

CNCP は、元々、土木学会が、「土木学会と連携しつつ『民』の立場で、①シビル NPO の連携を支援することと、②土木と市民との乖離・溝を埋めていくこと」を目指して、土木学会創立 100 周年事業の 1 つとして設立した NPO です。

同時に、CNCP と土木学会をつなぐ窓口として、学会内に「シビル NPO 推進小委員会」を「教育企画・人材育成委員会」の基に設置し、CNCP を立ち上げたメンバーと志を同じくする人たちが委員になって活動してきました。そして 2023 年度の事業計画に合わせて、2024 年 4 月、「土木広報センター」に「インフラパートナー・グループ」が設置され、移管されました。したがって、インフラパートナー・グループには、CNCP の事務局長や理事も参画しています。

詳しくは、下記の記事を見てみてください。

[※CNCP 通信 2024 年 4 月号 \(VOL.120\) 土木学会インフラパートナーグループの活動開始!](#)

■インフラパートナー制度に関するアンケート

「インフラパートナー・グループ」は、前身の「シビル NPO 推進小委員会」と CNCP とで設立して活動してきた「土木と市民社会をつなぐフォーラム」と一緒に、インフラパートナー団体と意見交換を行って、パートナーであることのメリットを高め、不具合を改善することを目指しています。

後日、個々にご相談して、Zoom での意見交換を行わせていただきたいと思いますと考えておりますが、その前に、インフラパートナーの皆様の感想や改善のニーズ等を、事前のアンケートで集約し、全体像を把握したいと考えました。

アンケートは 7/14 付けでメールでお願いし、9/14 までに 16/18 団体から回答をいただきました。その結果を以下に紹介します。

今後、アンケート結果を踏まえ、意見交換を実施していくとともに、その結果の内容をとりまとめて、土木学会 HP や CNCP 通信等で紹介していきたいと考えています。

1. インフラパートナーとなってよかった点、メリットと感じる点

1) の問いは全員に、2) ~4) の問いは「変化があった」と回答された方のみが対象です。残念ながら、④全く変わらないが 56%、③大差ないが 31%で、多くの団体が大きな変化はないと考えています。13%の②変わったと感じる団体では、2) で土木学会本部や他の団体との関係の変化や、3) 4) で講演会・イベント等の案内が相互に増えているようです。

2021年5月にインフラパートナーの第1回交流会が開かれてから、土木学会のホームページの「インフラパートナー」のサイトに、時々、「NPO法人 国境なき技師団」のイベント案内が掲載されるものの、CNCPを含め、皆さん、情報提供をしていない状態でした。

CNCPは、皆さんにCNCP通信を毎月配信し、皆さんの活動もCNCP通信で紹介していただきましたので、他の皆さんも相互に、少し情報交換が行われたものと推察します。

2024/9/14 比率 合計 回答数： 16 / 18団体

1. インフラパートナーとなってよかった点、メリットとを感じる点		
1) 2021年5月にインフラパートナーの第1回交流会が開かれてから、変化がありましたか？		
①大きく変わった	0%	0
②変わった	13%	2
③少し変化があったが大差ない	31%	5
④全く変わらない	56%	9
2) 変化の内容は、どことの関係でしょうか？		
①土木学会「本部」	50%	3
②土木学会「支部」	0%	0
③他の団体（NPO・大学・企業・自治体）等	50%	3
④その他	0%	0
3) 「入手できる情報」が、変わりましたか？		
①問い合わせが増えた。	0%	0
②講演会やイベント等の案内が増えた。	60%	3
③同じような活動をする団体との意見交換の機会が増えた。	0%	0
④その他	40%	2
＜④その他の意見＞入手できる情報の変化は感じません。		
4) 「発信できる情報」が、変わりましたか？		
①問い合わせが増えた。	14%	1
②講演会やイベント等の案内が増えた。	29%	2
③同じような活動をする団体との意見交換の機会が増えた。	14%	1
④その他	43%	3
＜④その他の意見＞主催行事の後援依頼をするようになった。		
＜④その他の意見＞インフラパートナーとして、土木部会関係の方にとって戴けた。		

2. インフラパートナー制度に対する要望

土木学会側の活動については、ほとんどの団体が、パートナーが実施するイベントの広報を含めた支援や、土木学会の広報ツールによる活動の発信、土木学会本部・支部やその他団体との交流の場の提供などの推進を期待しています。

今後、これらの活動をどのように行うか、土木学会といえども経営資源は限られていますし、インフラパートナーの活動の範囲・内容・対象は様々なので、皆さんのニーズと優先順位などを検討して、少しずつでも、確実に推進して行けるようにしたいと思います。

逆に、インフラパートナー側への協力要請（学会のイベントへの参加・PR、地域インフラ改善の提案、本部・支部との交流）については、50%強が①②の対応できるものの、50%弱が③④の対応できないとしています。しかし、②③の80%弱が何らかの対応は可能という風にも見えます。

その他の要望意見では、各団体の活動内容や地域が大きく異なるため、必要とする情報や連携の内容も異なり、様々な要望が上がっていると思われます。多くは、情報共有や連携に期待していますが、その内容は異なるようです。

2. インフラパートナー制度に対する要望

1) インフラパートナーの協定では、土木学会側は次の活動を推進することになっています。それぞれに対する感想はどれでしょう。

・パートナーが開催するイベントへの参加及び後援・広報PR、講師等専門家の派遣			① ② ③		
①推進を期待している。	75%	12	1	75% 6% 19%	
②足りている。	6%	1			
③ニーズがない。	19%	3			
・パートナー活動を土木学会の広報ツールにより対外的に発信			① ③		
①推進を期待している。	94%	15	1	94% 0%	
②足りている。	0%	0			
③ニーズがない。	6%	1			
・本部委員会、支部及び他団体との交流・情報交換の場の提供など			① ② ③		
①推進を期待している。	75%	12	1	75% 6% 19%	
②足りている。	6%	1			
③ニーズがない。	19%	3			

2) インフラパートナーの協定では、インフラパートナー側へは次の協力が要請されています。それぞれに対する感想はどれでしょう。

・学会のイベントへの参加・PR			① ② ③ ④			
①問題なく対応できる。	13%	2	1	13% 50% 31% 6%		
②だいたい対応できる。	50%	8				
③あまり対応できない。	31%	5				
④対応困難。	6%	1				
・地域インフラ改善のための提案			① ② ③ ④			
①問題なく対応できる。	19%	3	1	19% 44% 31% 6%		
②だいたい対応できる。	44%	7				
③あまり対応できない。	31%	5				
④対応困難。	6%	1				
・本部委員会・支部との交流など			① ② ③ ④			
①問題なく対応できる。	13%	2	1	13% 44% 31% 13%		
②だいたい対応できる。	44%	7				
③あまり対応できない。	31%	5				
④対応困難。	13%	2				

3) 「インフラパートナー制度」に対して、何か要望はありますか？

<自由記述>インフラに関する学校で使える教材や、インフラツアーなど関連する情報を入手したい。
<自由記述>現在は問題なく推移しており、今後の活動を注視しつつ活動続けたい。
<自由記述>・年次活動報告書などを作っていれば、それを、みんなで共有してはどうか？ 互いのことが知れる。 ・WEB参加が可能なイベントは、互いにまたは学会のサイトに、紹介してはどうか？ ・どの団体が何をしているか、整理して、ジャンル毎の（似た活動をしている）仲間を分かりやすくしてはどうか？
<自由記述>学会や他団体のイベント、研修や視察等の受け入れなど、場の提供や紹介をいただければ積極的に参画させていただきま
す。
<自由記述>当方に問題があるのかもしれませんが相互に交流、情報交換するという目的・目標が十分機能していないように感じる。
<自由記述>今のところ、特に要望はありませんが、当NPOは土木の魅力発信と小・中学校への出前 講座、建設現場見学会などを実施しており、連携する内容が多いとは思えません。建設業の人材確保に向けたキャリア支援などには広報を期待しています。
<自由記述>団体と土木関係者の枠を越えた一般市民への発信が弱い。／本制度に加入していることのメリットがあまり感じられない。
<自由記述>恥ずかしながら、本アンケートがきっかけではじめてCNCP通信をじっくり見返しました。私たちが、インフラパートナー制度を積極的に活動して、同じような活動をしている団体へ発信しようという意思と気力が足りていなかったです。発信することのメリットがあまり感じられなかったのかも・・・？
<自由記述>情報入手の面で利用させていただいています。働き方改革で情報交流する 時間が、自らの会の活動に充てるだけで他には手が出せない状況です。
<自由記述>既存の広報ツールを活用し、気軽にお互いの情報を共有できると良いと思います。
<自由記述>他のインフラパートナーと物理的な距離が大きく連携がすすまない。インフラパートナー推薦制度などあれば、エリア内のインフラパートナーが増え、地域での連携が活性化することが期待できる。
<自由記述>当NPO のイベントに関する土木学会の関与（オンラインセミナーにおける木学会の後援を依頼）は従来通りの申請/申し込み手続きで大きな問題はなく、新たな組織体制による手続きの煩雑さが少ないことを望みます。

3. 土木学会の本部や支部との連携

土木学会との連携については、「本部」「支部」のいずれに対して似た傾向で、約70%が連携強化または少しずつ増加を望んでいます。その一方、約30%は、今のままで充分と考えています。

3. 土木学会の本部や支部との連携				
土木学会との連携については、どんな感想をお持ちでしょうか？				
・土木学会「本部」との関係				
①もっと連携が強化されるとよい。	18%	3		
②連携する機会が少しずつ増えるとよい。	53%	9		
③連携する機会は今のままで充分。	12%	2		
④連携は特に必要になっていない。	18%	3		
・土木学会「支部」との関係				
①もっと連携が強化されるとよい。	19%	3		
②連携する機会が少しずつ増えるとよい。	50%	8		
③連携する機会は今のままで充分。	19%	3		
④連携は特に必要になっていない。	13%	2		

4. 他のインフラパートナー団体との連携

この設問は、複数選択で1つ~4つが選択され、4つに分散し、大差は生まれませんでした。

4. 他のインフラパートナー団体との連携				
どんなイメージをお持ちか、感想をお聞かせください。＜複数選択＞				
①似た活動を行っている団体とは、是非、意見交換をしてみたい。	31%	8		
②活動内容によるが、意見交換・情報交換・連携など前向きに検討したい。	19%	5		
③活動内容の情報共有程度は、行いたい。	19%	5		
④問合せがあれば、答えたい。	31%	8		
＜自由記述＞今後の連携の仕方や、情報共有方法等の活性化についてアドバイス頂ければと思います。				
＜自由記述＞たくさんの情報があふれでてくるようになってくる。偶然のきっかけからうまれる連携や、キーパーソンの強い意志や想いの連携のほうが、前に進みやすいです。				

5. 後日の意見交換

後日、個々に、深掘りした意見交換を行いたいと考えています。そのとき話題にしたい事項があれば・・・とお聞きした問いです。

今後、意見交換により、課題を具体化し、改善方法を模索していきたいと思っています。その結果の内容もとりまとめて、土木学会 HP や CNCP 通信等で紹介していきたいと考えています。

なお、この文章の記述は、土木学会/土木広報センター/インフラパートナー・グループの幹事長としてまとめています。しかし、CNCPの常務理事兼事務局長としては、インフラパートナー団体の1つとして、課題や期待を持っていますので、それも一緒に改善・解決を目指します。

皆様、よろしくお願いいたします。

5. 後日の意見交換

冒頭に書きましたように、後日、個々にご相談して、Zoomでの意見交換を行いたいと考えております。意見交換したい事項がありましたら、記述してください。

<自由記述>インフラに関する学校で使える教材や、インフラツアーなど関連する情報を入手したい。

<自由記述>・インフラパートナーシップの今後の展開をどのようにイメージしているのかが不明。
 ・CNCPが土木学会委員会活動に関与することの意味と具体的な役割は何なのか。
 ・我々は防災分野に特化したNPOだが、インフラパートナーシップ参加団体では他に防災分野の団体がなく、情報交換・意見交換の意義を現段階では感じていない。

<自由記述>本制度の運用状況や今後の取組について

<自由記述>現時点で想定されるテーマは以下のとおり。なお、回答者個人の感想なのでメンバーで議論してみたい。
 ・土木学会、特に支部との協力体制の在り方
 ・国、自治体を実施する同様の対応との差別化の議論
 ・それぞれの団体との情報共有、協議の在り方

<自由記述>本制度に加入している団体（大なり小なり）がメリットを感じられるためには？

<自由記述>・人材育成や豊かな海づくり活動をされている団体と情報交換を行いたいのですが、そういうインフラパートナーはいるのでしょうか。
 ・県内の交流の場で資料提供等はできるのでしょうか。

<自由記述>CNCP通信を改めて拝読して土木に関連するたくさんの情報と発信がなされているのだとわかりました。求めれば必要な情報にはたどり着くようになったけれども、求めないければたどり着かない。土木の業界にいてもそうなので、市民はまだまだ先の話。答えは持ち合わせていませんが、意見交換できれば幸いです。

<自由記述>他大学との(ME:メンテナンスエキスパート)インフラメンテナンスに関わる活動を各団体(岐阜、新潟、愛媛、舞鶴、山口、長崎)で切磋琢磨し、年間計画により時間抽出している。タイミングによっては参加困難の場合もあります。

<自由記述>実施するイベントにて、インフラパートナー制度をアピールするツールや方法など（今期あと2件、インフラをアピールするツアーなどを準備しており、参加者や報道機関向けにアピールするため、フラッグなどを準備したいと考えています。その可否や他の手法など）